

令和2年度

和歌山県立近代美術館の運営状況に対する評価書

和歌山県立近代美術館

和歌山県立近代美術館評価様式（令和2年度事業評価用）

1	展覧会（特別展）	3
	展覧会（企画展）	5
	展覧会（常設展）	9
	展覧会（新政策）	13
2	調査・研究	15
3	作品・資料の収集	16
4	作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備等	17
5	教育普及	18
6	国内外との連携	21
7	安全と快適性	22
8	入場者数と財源の確保	24

和歌山県立近代美術館評価様式（令和2年度事業評価用）

<p>美術館長による評価</p>	<p>今年度は4月当初から、未曾有の新型コロナウイルス感染症によって緊急事態宣言も発出される中、展覧会の開催自体も危ぶまれたが、徹底した感染対策を講じて、事故もなく展覧会ほかの事業を展開できたことは、職員一同の危機管理への対応の成果が如実に示されたものであった。</p> <p>とりわけ本年は、1970年の県立近代美術館から数えて開館50年を迎え、記念の特別展「もうひとつの日本美術史—近現代の名作2020」を、無事開催することができた。本展はまた、当館の初代学芸員である酒井哲朗氏が名誉館長を務められる福島県立美術館と共同して企画され、両館のコレクションの核を成す日本の近現代版画の歩みを、はじめて明らかにし、昨年の特別展「ミュシャと日本、日本とオルリク」に続いて美術館連絡協議会の優秀カタログ賞を受賞し、その内容は高く評価された。また、年度始めに開催した企画展「もうづくし」展は、コロナ禍により、予定していたイベントは全て中止し、シンポジウムもオンラインでの開催であったが、「もうひとつの美術史」展では、会期中に、館長も含めた担当学芸員による連続講座も開催された。</p> <p>自然災害ではなくとも、コロナ禍のようなパンデミックの状況下で、いかに「危機管理」を徹底して活動を行うかという厳しい問題が突きつけられた1年であり、展覧会や各種事業の開催形態などについて再考を迫られ、今後も、気を引き締めてさらなる活動を持続していかなければならないことを痛感した。</p> <p>加えて、新館開館から25年以上を経て、空調設備の老朽化、収蔵庫や一時保管庫の狭隘化、火災報知器の誤作動など、施設面の整備も急がれる。</p>
<p>評価部会による評価</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大のため、出張して調査を行うこともままならず、各地の博物館、美術館が休館となるなど、活動が大きく制限される中で、学芸員各々はもちろん、総務課職員も一体となって事業に取り組んでいることが伺われる。本来であれば開館50周年を記念し、オリンピックの開催にも合わせて大規模に事業も展開できたものと思われ、残念であるが、致し方ないであろう。和歌山県は比較的感染者が少なく、臨時休館の時期も短かったとは言え、入館者数を期待する状況ではなかったものと考えられる。感染症対策を取りながら、通常の展覧会事業を続けることは、負担も大きかったものと思われるが、その影響を最小限に抑えて美術館の基本的な活動を着実に遂行しており、展覧会の内容面では十分な成果を上げているものと評価できる。展示内容を広く伝える手段として、YouTubeの多彩なプログラム作成と活用は評価したい。今後も新しいメディアの活用には積極的に取り組み、地道な活動を今後につなげてもらいたい。</p>

1 展覧会（特別展）

美術館長による所見	本展覧会は、「評価」でも記したように、日本の近現代版画史について、展覧会としてはじめて明らかにするとともに、共同企画館であった福島県立美術館と、当館のコレクションの核をなす近現代版画作品を駆使して構成され、今後の巡回展のあり方、そして展覧会内容自体に、一石を投じる企画であったと思われる。美術館活動の生命線である作品収集活動と展覧会の開催という両輪が見事に結集し、それが同時に日本の近現代版画史再考の契機となったことも特筆される。
評価部会による所見	開館 50 周年という記念の年に、コレクションの核ともいえる版画に焦点を当て、東京オリンピックに合わせて福島県立美術館と共同開催する有意義な企画であった。体系的な内容であるとともに、近代美術への新しい視点を呈示し、更に地方からの視点も加えた、有意義な内容だった。福島県立美術館との共同企画であったが、当館でこそ実施できる内容であった。充実したカタログも、館の活動を広く知らしめるためには必須のものであり、美術館連絡協議会による優秀カタログを受賞したことは大いに評価される。今後も充実したカタログの発行が継続できるよう取り組んでいただきたいし、一般図書としての販売も視野に入れていただきたい。

①特別展-1

もうひとつの日本美術史——近現代版画の名作 2020

会 期：9月19日（土）～11月23日（月・祝）

会 場：展示室 C（1 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和 2 年度目標	版画は日本の近代美術を際立ってユニークなものにしている。しかし 1964 年の東京オリンピックにあわせて開催された芸術展示「近代日本の名作」には、版画作品はほとんど取りあげられなかった。本展では福島県立美術館と当館がそれぞれの風土と向き合いながら作り上げてきたコレクションを中心に、地方都市から「もうひとつの」日本美術史を発信する。
自己評価・課題・改善案	展覧会準備中に新型コロナウイルス感染症の拡大が始まり、調査や借用を依頼する範囲を狭くするほかなかったうえに、開催そのものも危ぶまれた。そのなかで、おもに当館のコレクションを見直し、福島県立美術館のコレクションをあわせて展示を構成することになった。美術館の活動に、コレクションがいかに大切かを改めて感じるようになった。それだけに、この展覧会は今後の当館の版画コレクションの充実にあたり、留意すべき点を明らかにするよい機会となった。木版画を中心に紹介されてきた日本近代版画史の中で、明治になって市中に普及したため、より印刷のイメージが強い銅版画と石版画の存在感が大きかったこと、さらに関西の版画の持つ精緻な表現の独自性、画家の版画工房との制作が版画家たちに与えた影響など、これから学ぶべきいくつかの課題を得た。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和 2 年度目標	図録、ポスター、チラシ、出品目録等を制作する。
自己評価・課題・改善案	図録（菊版変形 325 頁、オフセット印刷）、ポスター（B2 判、オフセット印刷）、チラシ（A4 判、オフセット印刷）、技法リーフレット（A6 版 4 折）、出品目録（A4 版 16 頁）、プレスリリース（A4 判 5 頁）を制作した。

C. 関連事業

令和 2 年度目標	講演会、フロアレクチャー、子ども美術館部等を開催する。
自己評価・課題・改善案	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を見ながら実施の可否を検討し、入場者を 60 名までと制限をして、講演会を 3 回開催した。

D. (A, B, C 以外の) 展覧会の工夫

令和 2 年度目標	近代から現代にかけて制作されてきた作品を一つの流れとしてとらえた展覧会の構成とする。
自己評価・課題・改善案	明治の印刷物からはじまり、1990 年代の表現までを十章で構成し、版画で近現代日本美術史を編むこと、それによって従来の日本美術史をより豊かにすることを目指した。同じ展覧会では扱いつらい創作版画を中心とした近代版画と、工房制作を含む現代版画をつなぐために、印刷を版画の母胎としてとらえ、大きな歴史の流れを提示した。感染症拡大のため、来館できない人のためにも図録の充実には力を入れた。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和 2 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	新型コロナウイルス感染症拡大に対して対策を取りながら開館し、事故なく会期を終えらるとともに、借用した作品の返却も無事に終えた。

F. 入館者数

令和 2 年度目標	10,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	7,714 人であった。

1 展覧会（企画展）

美術館長による所見	<p>「もようづくし」展は、当館のコレクションだけではなく、同じく県立の博物館や紀伊風土記の丘、さらには自然博物館に加えて市立博物館からも協力を得て、「もよう」というテーマを時代や、自然科学的な切り口からも考察した果敢な企画として評価できる。ただコロナ禍の影響もあり、予定されたイベントは中止せざるを得なかったが、それでも協力各館の学芸員も交えたオンラインによるシンポジウムの開催は、貴重な試みとなった。</p> <p>また、和歌山県出身の新進気鋭の作家である田中秀介氏の作品を中心に紹介した、第10回目を数える恒例の「なつやすみの美術館」は、これも新型コロナウイルス感染症の影響もあり、例年のような展示室内でのワークショップの開催は断念せざるを得なかったが、田中氏の作品再評価の場となった。感染対策を徹底してホールで開催された作家によるワークショップも、「なつやすみの美術館」の趣旨を体現するものとなった。</p> <p>さらに、今年度は当館の開館50年という記念すべき年にあたり、「企画展3コレクションの50年」のように、この間収集した作品の代表作を披露し、同時に県立美術館時代から開催した展覧会も紹介して、貴重な50年の歩みを広く伝えることができた。</p>
評価部会による所見	<p>コロナ禍の中でどの事業も対策を取りながら新しい試みを行っており、工夫が感じられる。コロナ禍により展覧会活動に支障を来す美術館もある中で、従来からコレクションを最大限に活かす活動に取り組んできたことが、充実した活動につながっているものと評価できる。ただ、展覧会を一過性のものとしないうるためにも、図録や小冊子など記録性の高い印刷物の制作に努力してほしい。</p> <p>「もようづくし」は館種を超えて多様な価値を引き出す試みであり、鑑賞者にとって良い企画であるだけでなく、学芸員にとっても相互に刺激のある企画だったと思う。</p> <p>「なつやすみの美術館」では児童生徒にとって新たな美への出会いの場になったと思う。出品作家である田中秀介氏の視点から館蔵品を提示する企画は興味深いものであった。</p> <p>「コレクションの50年」は半世紀の節目に重要な活動であり、自館の活動を客観的に捉える視線があったことが評価できる。「美術館を展示する」は、会期が短かったが貴重な内容であった。</p>

②企画展-1

もようづくし

会 期：4月25日（土）～6月28日（日）

会 場：展示室C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和2年度目標	<p>私たちの身の回りは、さまざまな模様で彩られている。人間のいとなみの中で作られた模様のほか、自然界には様々な形や色が現れた模様も見出すことができる。本展では県立紀伊風土記の丘、県立博物館、和歌山市立博物館、県立自然博物館からも作品や資料を借用して、いろいろな角度から模様にアプローチし、美術表現としての可能性も再考する。</p>
自己評価・課題・改善案	<p>コロナ禍の影響が出始めた頃で、当初予定していたワークショップ等が中止となったのは残念であった。シンポジウムも集客しての開催は叶わなかったが、Zoomの録画機能を活用して、Webシンポジウムとして実現し、ジャンル横断的に「もよう」の面白さに迫ることができた。</p>

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和2年度目標	<p>ポスター、チラシ、出品目録を制作する。</p>
自己評価・課題・改善案	<p>ポスター（B2判）、チラシ（A4判）、プレスリリース（A4判4頁）、英語版概要（A4判1頁）、出品目録（A4判8頁）を制作した。</p>

C. 関連事業

令和2年度目標	出品作家の染谷聡氏によるワークショップ、県立紀伊風土記の丘、市立博物館、県立博物館、県立自然博物館、近代美術館の5館合同によるシンポジウム、こども美術館部、だれでも美術館部、たまごせんせいとわくわくアートツアー（和歌山大学美術館部の学生による鑑賞ガイド）、フロアレクチャーを開催する。
自己評価・課題・改善案	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当初予定していたイベントはすべて中止とし、シンポジウムをオンラインで公開した。

D. (A, B, C 以外の) 展覧会の工夫

令和2年度目標	古代から近現代まで、さまざまな形で人のいとなみに寄り添ってきた模様を導入として紹介した上で、制作プロセスが模様と近似し、結果的に模様に近い表情を見せる抽象作品も展示することで、模様を手がかりに抽象作品にも親しめる機会とする。また、身の回りにある模様にも目を向けてもらうため、自然界に見出される模様にも光を当てる。
自己評価・課題・改善案	展示室空間をどのエリアからも自由に行き来できるよう構成し、美術とそれ以外のジャンルとをリンクさせながら観覧できるよう工夫した。自然博物館から借用した資料に関しては、同館学芸員による解説も付した。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和2年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	特に新型コロナウイルス感染症拡大防止への配慮を行い、清掃回数を増やし、消毒剤を設置するなどの対策を行った。借用作品についても安全に配慮して事故なく借用、返却を終えた。

F. 入館者数

令和2年度目標	5,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	2,616 人であった。

②企画展-2

なつやすみの美術館 10「あまたの先日ひしめいて今日」

会 期：7月11日（土）～8月30日（日）

会 場：展示室C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和2年度目標	和歌山県出身の画家・田中秀介（たなかしゅうすけ）氏の作品を入口に、日常生活の一面を切り取った作品を通して楽しみながら美術に接する機会を提供する。
自己評価・課題・改善案	日常を元に描く田中秀介氏の視点を収蔵作品への眼差しに拡張し、来館者と体験を共有できる展示となるよう構成を考えた。新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から近年の「なつやすみの美術館」展で実施してきた展示室内のワークスペース設置を断念したが、作家の提案による「距離感」をキーワードに展示を構成し、ワークシートをはじめ展示への鑑賞者の主体的な関わりが生まれるよう工夫した。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和2年度目標	ポスター、チラシ、出品目録、各種ワークシート等を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター（B2判）、チラシ（A4判）、出品目録（A4判6頁）、ワークシート（A4判4頁）を制作した。

C. 関連事業

令和2年度目標	講演会、フロアレクチャー、ワークショップ、和歌山大学学生による作品鑑賞会、こども美術館部等を開催する。
自己評価・課題・改善案	和歌山県と一般財団法人和歌山県文化振興財団の主催による夏休みアートワークショップ「思い出を重ねて、誰も知らない思い出を描こう！」を開催したほか、和歌山大学美術館部の学生による「たまごせんせいとわくわくアートツアー」を4回開催した。作者とともに会場をあるきながら紹介する映像をインターネットで公開した他、インターネットから参加できるワークショップ「もより石」を実施した。インターネットを利用した情報提供や展覧会への参加の促進が今後の課題である。

D. (A, B, C 以外の) 展覧会の工夫

令和2年度目標	年齢の若い作家を紹介することで若年層の美術に対する親近感を高めるとともに、作家の視点によって館藏品に対する新たな接し方を提示する。
自己評価・課題・改善案	近年の「なつやすみの美術館」展で実施してきた展示室内のワークスペース設置を断念したが、作家の提案による「距離感」をキーワードに展示を構成し、ワークシートをはじめ展示への鑑賞者の主体的な関わりが生まれるよう工夫した。鑑賞後にワークシートに取り組める手がかりとなるよう、出品目録には全作品の画像を掲載した。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和2年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	新型コロナウイルス感染症拡大防止への配慮を行い、清掃回数を増やし、消毒剤を設置するなどの対策を行った。借用作品についても安全に配慮して事故なく借用、返却を終えた。

F. 入館者数

令和2年度目標	10,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	4,416 人であった。

②企画展-3

開館 50 周年記念 和歌山県立近代美術館 コレクションの 50 年

会 期：9 月 19 日（土）～12 月 20 日（日）

会 場：展示室 A・B（1 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和2年度目標	開館 50 周年となる今年、半世紀をかけて形作ってきたコレクションを通して、当館の歩みを辿る。和歌山という地域性に根ざし、地道な調査研究に基づく展覧会と作品収集を継続するなかで形成されたコレクションの魅力と特質を紹介する。
自己評価・課題・改善案	開館 50 周年を記念したコレクション展示として、前身の和歌山県立美術館から、和歌山県民文化会館内に開館した和歌山県立近代美術館（旧館）を経て、現在の和歌山県立近代美術館（新館）にいたるまで、建物の変遷による 3 期に分けて、展覧会を中心としたそれぞれの時代の活動と収蔵作品とを結びつけて紹介した。そのことにより、コレクションを通して当館の活動のあゆみをたどれるような構成とした。

B. パンフレット・出品目録等の制作

令和2年度目標	ポスター、チラシ、出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター（B2 判）、チラシ（A4 判）、出品目録（A4 版 8 頁）、プレスリリース（A4 版 4 頁）を制作した。

C. 関連事業

令和2年度目標	講演会、フロアレクチャー、こども美術館部等を開催する。
自己評価・課題・改善案	フロアレクチャーを4回、こども美術館部を2回開催した他、「関西文化の日」に合わせて夜間開館を行った。

D. (A, B, C 以外の) 展覧会の工夫

令和2年度目標	収蔵年や経緯などが分かる表示や解説を付け、コレクションの歩みと広がりを感じられるような構成とする。
自己評価・課題・改善案	各世代の来館者にとって、自身と当館との関わりをふりかえる機会を提供することができた。改めて調べた内容を印刷物として残すことができなかつたのは残念であったが、展示風景や会場掲出パネルのウェブ上への掲載などを行った。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和2年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	新型コロナウイルス感染症拡大防止への配慮を行い、清掃回数を増やし、消毒剤を設置するなどの対策を行った。

F. 入館者数

令和2年度目標	8,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	8,637人であった。

1 展覧会（常設展）

美術館長による所見	<p>今年度は4つの常設展、そして前年度に続いて、県の新政策事業である「おでかけ美術館」を、紀中の御坊市で、「なつやすみの美術館」でも協力を得た田中秀介氏の作品を中心に開催できたことは、当館で開催された展覧会の新たな巡回企画の実現と位置づけられよう。</p> <p>また、浜口陽三の没後 20 年を記念し、当館版画コレクションでも高く評価されている同作家の特集展示は、同時にゆかりの浜口梧陵の生誕 200 年記念として、県立博物館、文書館等で特集展示が行われたその連携展示としても意義深い。</p> <p>そして「開館 50 周年記念 美術館を展示する」展は、コレクション、展示活動、さらに50年の当館の歩みを総合的に、新たな手法で紹介した展覧会として高く評価できる。</p>
評価部会による所見	<p>コレクション展は当館のアイデンティティを形成するものであり、妥当な内容であると考え。特集展示の内容はそれぞれ企画展に等しいほど充実しており、やはり図録などの印刷物で残すことを期待したい。</p> <p>「浜地清松」の特集展示は、財政的に厳しい中でありながら、これまでの調査を踏まえた着実な内容で、作家の足取りがわかる内容として重要なものであった。まとめて紹介されるのは没後初めてのことであり、今後も美術史の流れから取り残されている作家の紹介には取り組んでもいただきたい。</p> <p>「浜口陽三」の特集展示は濱口梧陵との関係からも興味深い企画であった。</p> <p>「美術館を展示する」展は切り口が新しく興味深い展示であった。サステナビリティという視点はタイムリーなものであり、パンフレットもよくまとまっていてわかりやすかった。</p> <p>「おでかけ美術館」事業は和歌山県の地理的環境からも不可欠の事業であり、3 年を目処と聞いているが、継続を願いたい。</p>

③常設展-1

コレクション展 2020- 春 特集「浜地清松」

会 期：4月25日（土）～6月21日（日）

会 場：展示室 A・B（1 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和 2 年度目標	<p>常設展示 コレクションの特色を生かし、所蔵作品への理解を深められるようテーマを設けながら近現代美術の秀作を展示する。また、改築にあわせて滋賀県立近代美術館から寄託された作品とともに、当館コレクションの魅力を紹介する。</p> <p>特集展示 アメリカ・フランスに学んだ和歌山県出身の洋画家・浜地清松(1885～1947)を特集で紹介する。</p>
自己評価・課題・改善案	<p>常設展示では、「和歌山ゆかりの作家と近現代の美術」「滋賀県立近代美術館コレクションと戦後美術」「人のイメージ」のテーマによって、近年新しく収蔵した作品も交えながら展示を構成した。受託中の滋賀県立近代美術館コレクションは、同展が当館で展示できる最後の機会となったことから、特に戦後アメリカの大型作品を中心に紹介した。</p> <p>特集展示では、浜地と交流のあった作家の作品や、アルバムなどの資料を紹介し、作品は少ないながらその生涯をたどる展示を行うことができた。</p>

B. パンフレット・出品目録等の制作

令和 2 年度目標	常設展示、特集展示とも出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	プレスリリース(A4 判 4 頁)、英語版概要(A4 判 1 頁)、出品目録(A4 判 8 頁)を制作した。

C. 関連事業

令和 2 年度目標	フロアレクチャー等を開催する。
自己評価・課題・改善案	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当初予定していたイベントはすべて中止とした。

D. (A, B, C 以外の) 展覧会の工夫

令和 2 年度目標	<p>常設展示 時代ごとの美術の展開を示すとともに、テーマを設けて様々な角度から作品に接することができるよう工夫する。</p> <p>特集展示 浜地清松とともに関連作家や同時代の作家の作品、資料などもあわせて紹介する。</p>
自己評価・課題・改善案	<p>常設展示 新型コロナウイルス感染症の影響で、開館できるかどうか不明なまま準備し、また開館してからも不安な状況での展示となり、来館者できない方々へのアプローチを考える必要がある。</p> <p>特集展示 浜地清松は残された作品が少なく、経歴にも不明な点が多いが、近年少しずつ作品や情報が集めることができ、今回没後初めての回顧的な展示となった。移民として渡ったアメリカ時代、パリ時代、そして帰国後の活動の足跡を、交流のあった作家や同時代の作家たちとともにある程度は辿り、再評価の機会を設けられたと思う。同展示を機会に新しい資料など発見もあり、今後も調査研究を継続していきたい。</p>

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和 2 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	新型コロナウイルス感染症拡大防止への配慮を行い、清掃回数を増やし、消毒剤を設置するなどの対策を行った。

F. 入館者数

令和 2 年度目標	3,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	1,930 人であった。

③常設展-2

コレクション展 2020-夏

特集「浜口陽三」

会 期：6月30日（土）～9月6日（日）

会 場：展示室 A・B（1階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和 2 年度目標	<p>常設展示 所蔵作品への理解を深められるよう近現代美術の秀作を展示するとともに、改築にあわせて滋賀県立近代美術館より寄託された作品により現代美術の展開を紹介する。</p> <p>特集展示 カラー・メゾチントのパイオニア、浜口陽三の没後 20 年を記念した特集展示を行う。</p>
自己評価・課題・改善案	<p>常設展示 「和歌山ゆかりの作家と近現代の美術」「滋賀県立近代美術館コレクションと戦後美術」の 2 部構成で、近代から現代への美術の展開を紹介した。</p> <p>特集展示 浜口梧陵の生誕 200 年記念として、県立博物館、文書館等で特集展示が行われるのと合わせ、当館でも浜口陽三の特集展示を行った。</p>

B. パンフレット・出品目録等の制作

令和 2 年度目標	常設展示 、 特集展示 とも出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	プレスリリース、出品目録(A4 判 8 頁)を制作した。

C. 関連事業

令和 2 年度目標	特集展示 フロアレクチャーを 3 回実施する。
自己評価・課題・改善案	フロアレクチャーを 3 回実施した。

D. (A, B, C 以外の) 展覧会の工夫

令和 2 年度目標	常設展示 季節感を感じさせる作品を紹介する。 特集展示 作家・作品解説を設置して、わかりやすい展示になるよう工夫する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 寄託されている滋賀県立近代美術館の作品を交えて、明治から現代までの美術の流れをたどって紹介することができた。 特集展示 浜口陽三の特集展示では、初期から代表作のカラーメゾチントまで、技法の実験・展開を辿りつつ、モノクロームとカラーの比較をするなど、作品の魅力を感じられるよう工夫した。更に、前年度に開催した特別展「ミュシャと日本、日本とオルリック」のために借用した株式会社インテック蔵のミュシャ作品 15 点が、コロナ禍により借用期間が延長されたため、特別展の際には当館で展示しなかった作品も含め、改めて紹介する機会を作ることができた。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和 2 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	新型コロナウイルス感染症拡大防止への配慮を行い、清掃回数を増やし、消毒剤を設置するなどの対策を行うとともに、寄託作品を含めて作品の安全確保に努め、その後作品は無事に返却した。

F. 入館者数

令和 2 年度目標	5,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	3,843 人であった。

③常設展-3

開館 50 周年記念 美術館を展示する

会 期：12 月 1 日（火）～12 月 20 日（日）

会 場：展示室 C（2 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和 2 年度目標	当館のコレクションを歴史として迎える同時期開催の「コレクションの 50 年」と連動し、多面的な活動の場としての美術館を振り返り、これからの見据える。
自己評価・課題・改善案	同時開催となる、「コレクションの 50 年」展では紹介しきれない 50 年間の美術館活動を、美術館の理念や展覧会活動、美術館建築、調査研究、収集、寄託、展示、教育普及といった側面から多面的に紹介した。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和 2 年度目標	ポスター、チラシ、出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	「コレクションの 50 年」展と共通のポスター（B2 判）とチラシ（A4 判）を制作し、出品目録（A4 判 6 頁）を別に制作した。また記録ウェブサイトを作成した。

C. 関連事業

令和 2 年度目標	フロアレクチャー、こども美術館部等を開催する。
自己評価・課題・改善案	フロアレクチャーを 2 回、こども美術館部を 2 回、「だれでも美術館部」を 1 回開催した。

D. (A, B, C 以外の) 展覧会の工夫

令和 2 年度目標	長年にわたる美術館活動に関する資料などを掘り起こし、写真や映像なども用いた展示を工夫したい。
-----------	--

自己評価・課題・改善案	展示替え作業を撮影した早回し動画などの映像展示を多用し、展示道具や調査道具の展示など、美術館の仕事をよりリアルに感じられるような構成としながら、「持続性／サステナビリティ」という現在の広い問題に関わる観点との結びつき、あるいは美術館とは何かという本質的な問いかけを行い、幅広い層の関心を喚起した。
-------------	--

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和2年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	新型コロナウイルス感染症拡大防止への配慮を行い、清掃回数を増やし、消毒剤を設置するなどの対策を行うとともに、資料や作品の安全に配慮して事故なく会期を終了した。

F. 入館者数

令和2年度目標	2,500人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	1,098人であった。

③常設展-4

コレクション名品選

会 期：令和3年1月5日（火）～1月24日（日）

会 場：展示室B（1階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和2年度目標	所蔵作品を通して美術文化への理解を深められるよう、コレクションからよりすぐった作品を展示する。
自己評価・課題・改善案	展示作品数が少なくなることから、和歌山ゆかりの作家に限定し、前半を戦前、後半を戦後の作品に大きく分けて紹介した。

B. パンフレット・出品目録等の制作

令和2年度目標	出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	出品目録(A4判8頁)を制作した。

C. 関連事業

令和2年度目標	フロアレクチャーを1回開催する。
自己評価・課題・改善案	こども美術館部を2回開催した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

令和2年度目標	県展が展示室AとCでの開催となり、通常の1/3の規模となるため、所蔵品からよりすぐった作品で構成するとともに、作品への愛着が増すようなコメントを集めるなどの工夫をおこなう。
自己評価・課題・改善案	出品目録に作家の略歴等を記載するとともに、各作家が和歌山県内のどこにゆかりを持つのかを簡単に示した地図で作家への親近感を持てるよう工夫した。また、各作家の生没年表を掲示して時間の流れを追った展示であることを示した。「美術館を展示する」展で行われた「あなたの「和歌山県立近代美術館」」を続けて美術館への声を集め、掲示した。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和2年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	新型コロナウイルス感染症拡大防止への配慮を行い、清掃回数を増やし、消毒剤を設置するなどの対策を行うとともに、資料や作品の安全に配慮して事故なく会期を終了した。

F. 入館者数

令和2年度目標	1,500人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	1,745人であった。

④新政策-1

美術館長による所見	当館と県福祉事業団との共催によって紀中地方で開かれた第2回目の新政策事業である本展は、和歌山ゆかりの現代作家の作品を御坊市の旧中川邸「ぎやらりーなかがわ」という旧家を会場にして開催し、新鮮な出会いと新たな館活動の創出の場となった。
評価部会による所見	御坊市の旧中川邸という伝統的な日本家屋に田中秀介氏の作品を展示するという内容は、新鮮な驚きを引き起こさせる楽しい企画であった。コロナ禍のため当初計画された学校からの集団来館やワークショップは実施できなかったが、作者の発案によるインターネットから参加するワークショップも、コロナ禍に対応しながらの新しい試みとして評価したい。和歌山県の地理的環境からも不可欠の事業であり、3年を目処と聞いているが、継続を願いたい。

芸術に親しもう！ おでかけ美術館 第2回 紀中地方 田中秀介展「かなたの先日ふみこんで今日」

会 期：令和2年9月10日（木）～10月25日（日）

会 場：ぎやらりーなかがわ（御坊市）

主 催：和歌山県立近代美術館、和歌山県福祉事業団

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和2年度目標	近代美術館への来館が困難な地域で、活躍中の和歌山ゆかりの美術家の作品を紹介する。今回は紀中地方において、画家として活動を続けている田中秀介氏の作品を紹介する。
自己評価・課題・改善案	「なつやすみの美術館 10」展で紹介した田中秀介氏の作品を紀中地方、御坊市のぎやらりーなかがわで展示し、新しい美術の動向を紹介するとともに、美術館の活動について広く知ってもらう機会を設けた。

B. パンフレット・出品目録等の制作

令和2年度目標	ポスター、チラシ、出品目録、ワークシート等を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター（B2判）、チラシ（A4判）、出品目録（A4判6頁）、ワークシート（A4判4頁）、展示記録パンフレット（A5判16頁）を制作した。

C. 関連事業

令和2年度目標	ワークショップ、レクチャー等を開催する。
自己評価・課題・改善案	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ワークショップやレクチャーの開催は見送り、ワークシートや展覧会に関するアンケート、インターネットでのワークショップ「はざまにお邪魔」を実施した。また作者による作品解説をインターネットで配信した。

D. (A, B, C 以外の) 展覧会の工夫

令和 2 年度目標	学校から会場までのバスを運行し地域の中学生を中心に来館を促す。
自己評価・課題・改善案	伝統的な日本家屋という近代美術館とは全く異なった展示環境で、「なつやすみの美術館 10」の展示構成に従って作品を紹介した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校からの来館を促すことができなかった。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和 2 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	新型コロナウイルス感染症拡大防止への配慮を行い、消毒剤を設置するなどの対策を行うとともに、作品の安全に配慮して事故なく会期を終了し、作品の返却も行った。

F. 入館者数

令和 2 年度目標	1,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	590 人であった。

2 調査・研究

美術館長による所見	<p>当館のコレクションの核を成す日本の近現代版画について、特別展「もうひとつの美術史—近現代版画の名作 2020」展の図録に、担当した植野比佐見、宮本久宣、青木加苗各学芸員がそれぞれ調査・研究に基づく優れた論考を寄せ、その成果は美術館連絡協議会の「優秀カタログ賞」受賞として結晶した。</p> <p>また、開館 50 年を迎え、公立美術館としては初めての『50 年史』刊行に向け、美術館活動の歴史を編纂する作業に着手したことも、学芸員の「調査・研究」の観点から評価したい。</p>
評価部会による所見	<p>各館員の多方面での活躍が今後も続けられるような運営を求めたい。それぞれ調査、研究に基づいた充実した展覧会活動を行っているが、印刷物の刊行に努力されたい。</p>

①調査・研究

A. 美術に関する調査・研究件数

令和 2 年度目標	美術に関する調査・研究を行う。
自己評価・課題・改善案	学芸員各自がそれぞれの主題に関する調査・研究を行った。

B. 外部研究機関・団体等と共同した調査・研究

令和 2 年度目標	外部研究機関・団体等と共同した調査・研究を行う。
自己評価・課題・改善案	福島県立美術館等と共同での調査、研究を行った。

②調査・研究成果の活用

A. 展覧会・教育普及活動等への成果の反映

令和 2 年度目標	展覧会・教育普及活動等に成果を反映する。
自己評価・課題・改善案	調査、研究を展覧会等の美術館活動に反映させた。

B. 学術的公表（館研究紀要・報告書・学会誌・インターネット等）

令和 2 年度目標	学術的公表（館研究紀要・報告書・学会誌・インターネット等）を行う。
自己評価・課題・改善案	館外での講演や執筆など調査・研究の普及活動を行った。

3 作品・資料の収集

美術館長による所見	今年度は、購入作品 11 作家の 36 点、寄贈作品 18 件 336 点をコレクションに加えることができた。新政策「おでかけ美術館」で取り上げた若手 2 作家の作品、収集の中心作家である川端龍子や野長瀬晩花の日本画、国吉康雄の初期銅版画や永瀬義郎、平塚運一、前川千帆に加え、安井曾太郎の版画他を購入し、継続して版画収集を行うことができた。 寄贈作品では、11 名の方々から作品を譲り受け、田中恒子氏から継続して 4 点の作品を、さらにパブロ・ピカソの貴重な鉛筆画、また書物工芸家の大家利夫氏からは国内外の作家の版画作品など 49 点、大久保一コレクションから旧蔵版画 34 点、さらに写真作品の一括収蔵となる奈良原一高の代表作 204 点など、貴重な作品群が加わった。
評価部会による所見	これまでの調査、研究に基づき、コレクションをより充実させる作品を新たに追加できているものと評価できる。大量の作品の寄贈があるのも、館の活動が全体として評価されていることを証するものである。まとめて展示される機会をぜひ作っていただきたい。多額とは言えない予算であるが購入を継続していることは評価したい。ただコレクションの形成は館の骨格であり、購入費の増額を求めたい。また図書については寄贈分も評価できるような資料の作成を求めたい。

①作品・資料の収集

A. 美術作品収集方針に沿った作品・資料の収集（コンプライアンス、収集手続き）

令和 2 年度目標	美術作品収集方針に沿った適正な手続きに基づいて作品・資料の収集を行う。
自己評価・課題・改善案	令和 3(2021)年 2 月 7 日に令和 2 年度和歌山県立近代美術館美術作品選定委員会を開催し、購入、寄贈作品の受け入れについて諮ったうえで、適正な手続きを経て作品を収蔵した。

B. 購入、受贈に係る作品・資料の点数、内容

令和 2 年度目標	購入・受贈において作品・資料の点数、内容が適切であるようにする。
自己評価・課題・改善案	購入作品 36 点、寄贈作品 18 件 336 点の収蔵を行った。

②図書資料の収集・公開

A. 図書資料の収集、研究や閲覧への活用

令和 2 年度目標	図書資料を収集し、研究や閲覧に活用する。
自己評価・課題・改善案	逐次刊行物 13 タイトル 69 冊、単行図書 41 タイトル 58 冊を収集し、研究、閲覧に活用している。

4 作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備等

美術館長による所見	後世に貴重なコレクションを引き継いでいくために、常に作品の状態を調査し、保存修復に勤めることは、美術館活動の貴重な柱の一つである。今年も継続して、東京などから保存修復の専門家を招聘し、アドバイスを心得て実地修理による、学芸員の意識向上につとめ、その技術水準については、日本の美術館の中でも、高い見識を有していると思う。
評価部会による所見	保存環境の維持は目立たないが重要な仕事であり、最新の知見に基づいて対応が行われていることがうかがわれ、努力を評価したい。収蔵作品の点数に比べて、修復が行われた作品が少なすぎるように思われる。作品の状態把握と修復にはさらに積極的に取り組んでいただきたい。保存環境の整備のためには、収蔵庫・書庫の増設についても評価部会として提言する必要があるように思う。

①作品・資料の状態調査

令和2年度目標	作品・資料の状態調査を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	展示、貸出の機会にあわせて継続的に所蔵品の状態を調査し、保存上の対策を必要とする作品については、マウントや額の改良・交換を中心に処置を進めた。

②作品・資料の保存環境

令和2年度目標	作品・資料にとって適切な保存環境を保ち、整備する。
自己評価・課題・改善案	これまでの数年間に蓄積したデータをもとに、季節、天候による環境の変化から起こる虫菌害を抑えることができた。計画的な清掃にあわせ、毎月のトラップによるモニタリングの結果によって対策を加え、良好な保存環境を実現しつつある。空調機器の更新に伴い、環境は改善されている。

③作品・資料の保存修復

令和2年度目標	作品・資料に対し適切な保存修復を行う。
自己評価・課題・改善案	館外の保存修復専門家による状態調査を実施・記録し、修復が必要と判断された作品のうち、優先順位の高いものについて処置を実施した。油彩作品1点、版画作品9点の修復を行うことができた。

④作品・資料の管理

作品・資料の管理（台帳・データベース）

令和2年度目標	作品・資料の管理（台帳・データベース）を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	作品の状態調査、展示、貸出記録、台帳・データベースの管理を日常的に実施、更新処理を行った。

⑤作品・資料のデータ公開

令和2年度目標	作品・資料のデータを公開する。
自己評価・課題・改善案	展覧会出品目録、新収蔵作品目録を年報に掲載した。インターネットを通じて公開する所蔵作品情報を充実させることが課題であるが、これまで利用している文化庁の文化遺産オンラインに加えて、新しいプラットフォームが構築されており、公開の方法について研究をすすめる。

5 教育普及

美術館長による所見	今年度は、コロナ禍にあつて、展示室などで直接来館者と接する解説会やワークショップなどを自粛したが、それでも、「なつやすみの美術館」での作家のワークショップや、特別展「もうひとつの美術史」でのホールを会場にした連続講座の開催など、感染対策を徹底して、可能な限り教育普及活動を継続開催した。また、「もようづくし」展でのオンラインによるシンポジウムの開催など、パンデミック下での教育普及事業の展開について、今後の活動を再考する1年となった。
評価部会による所見	教育普及は美術館活動の裾野を広げるために重要な活動であるが、コロナ禍によって従来の活動は大きく制限されることとなっている。その中で、インターネットを活用するなど、新しい取り組みを行っていることは評価できる。また、県内各自治体との連携を強める方策を探ってはどうか。

①学校・団体鑑賞の受入

A. 学校教育団体からの来館を受入れる

令和2年度目標	120件程度を目標としているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため来館目標を設定できない状況にある。
自己評価・課題・改善案	82件の団体を受け入れた。

B. 鑑賞教材等の制作等の工夫

令和2年度目標	来館に際して教材開発などの工夫を行う。
自己評価・課題・改善案	「なつやすみの美術館」展を中心に教員らと共同でワークシートを開発するなどの取り組みを行った。

②講演会・解説会等

A. 講演会等の回数

令和2年度目標	25回を目標としているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため受入回数を目標として設定できない状況にある。
自己評価・課題・改善案	インターネット配信も含めてレクチャー等を24回実施した。

③ワークショップ・バックヤードツアー等の体験的プログラムやコンサート

A. ワorkshop等を開催する

令和2年度目標	4回を目標としているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため受入回数を目標として設定できない状況にある。
自己評価・課題・改善案	計画した事業はすべて中止とした。

④ 県民や地域との連携

A. ボランティア活動の受け入れ

令和2年度目標	図書ボランティアの活動を受け入れる。
自己評価・課題・改善案	延べ77人のボランティア活動及び和歌山大学教育学部から3名のボランティアを受け入れた。

B. 友の会等の支援組織の活動への協力

令和2年度目標	友の会、NPO等の芸術文化支援組織の活動に協力する。
自己評価・課題・改善案	和歌山県立近代美術館友の会の活動や、和歌山芸術文化支援協会によるワークショップなどに協力した。

C. 学校・教員等と連携した事業

令和2年度目標	地域の教員等と連携して和歌山美術館教育研究会を組織し、中学校での宿題としての展覧会利用やワークシート制作などに取り組む。和歌山大学教育学部と県教育委員会の連携事業の一環として、和歌山大学教育学部、同附属小学校・中学校と連携して展覧会を課題とした鑑賞、制作、指導法の策定に取り組む。和歌山市美育協会に協力し、鑑賞に関する研修会を開催する。学校教員との協力体制の強化を目的とした研修会を継続して開催する。
自己評価・課題・改善案	中学校教科等別研修会の開催、和歌山美術館教育研究会を9回開催するなど、学校や教員と連携した事業を実施した。

D. 地域と連携した事業

令和2年度目標	地域と連携した事業を行う。第74回和歌山県美術展覧会(県展)、第6回ジュニア県展を文化学術課との連携のもとに実施する。県警音楽隊たそがれコンサートへの事業協力を行う。マジカルミュージックツアー等イベントへの事業協力を行う。
自己評価・課題・改善案	第73回和歌山県美術展覧会(県展)、第5回ジュニア県展を文化学術課との連携のもとに実施した。県警音楽隊たそがれコンサートは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となったが、時期を変更して実施されたマジカルミュージックツアー等イベントへの事業協力を行った。

E. 県内博物館・図書館施設等と連携した事業

令和2年度目標	収蔵資料を相互に貸出、借用し展示を行う他、諸々の調査活動を共同で行う。和歌山県立紀伊風土記の丘が開催する風土記まつりに参加する。図書館を含む県立5館でスタンプラリーを実施する。「和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議」の一員として活動する。
自己評価・課題・改善案	県立5館が連携してスタンプラリーを実施したが、風土記まつりははじめ各館で協力して実施する事業は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。「もようづくし」展に際しては各館学芸員によるシンポジウムをウェブで配信した。

F. 観光資源として活用できる方策

令和2年度目標	近隣の集客施設にチラシ等を配布し、利用についてアピールする。
自己評価・課題・改善案	県内各地の教育委員会、ロータリークラブ、ライオンズクラブ等への利用アピールを行った。オリジナルスタンプによるスタンプラリーを実施し通年のリピーター獲得に取り組んだ。

⑤人材育成

A. 博物館実習生・インターンシップ・教員研修などの受け入れ

令和2年度目標	博物館実習生・職場体験学習・インターンシップ・教員研修などを受け入れる。
自己評価・課題・改善案	博物館実習は3大学から4名を6日間、職場体験学習等は3校から4名を受け入れた。

⑥機関誌「NEWS」の刊行

令和2年度目標	機関誌を年4回刊行する。
自己評価・課題・改善案	機関紙「NEWS」を年4回、各2,500部を発行した

⑦県民への直接的情報提供

A. 問い合わせ・質問(電話・来館等)への対応

令和2年度目標	専門的内容に関する問い合わせ・質問(電話・来館等)に対応する。
自己評価・課題・改善案	作者や展覧会等についての問い合わせ4件に対応した。

⑧メディア等への情報発信

A. 掲載件数、メディアへの広報・情報提供活動、番組制作等への協力

令和2年度目標	掲載100件を目標とする。メディアへの広報・情報提供活動を行う。番組制作等に協力する。
自己評価・課題・改善案	新聞・雑誌等に67件の掲載があった他、カタログなどの撮影に協力した。

⑨WEBによる広報

A. ホームページアクセス件数・更新回数・工夫

令和2年度目標	ホームページ月間ページビュー数15,000件を目標とする。
自己評価・課題・改善案	ホームページ月間ページビュー数は23,338件であった。

B. メールマガジン等の発行回数・工夫

令和2年度目標	10回を目標とする。メールマガジンに画像を加える等興味を引く工夫をする。
自己評価・課題・改善案	メールマガジンは10回発行した。登録読者数html版610名(前年度比1名減)、テキスト版35名(前年度比1名増)、計名。またFacebook、twitter、Instagramを通じて情報提供を行った。

⑩広報印刷物の制作

A. ポスター・チラシ・案内はがき・年間の展覧会カレンダー等の情報提供・広報活動

令和2年度目標	ポスター・チラシ・案内はがき・年間の展覧会カレンダー等の情報提供・広報活動を行う。
自己評価・課題・改善案	令和2年度展覧会カレンダー 6.1×10.5cm 巻き5ツ折(10頁)を製作(10頁)する他、各展覧会でポスター、チラシ等を制作した。

6 国内外との連携

美術館長による所見	今年度は、コロナ禍にあつて国内外の美術館や諸機関との連携について、厳しい状況にあつたが、それでも特別展「もうひとつの美術史 近現代版画の名作 2020」で、福島県立美術館との調査・研究に基づく共同企画が実現したように、継続して成果を収めることができた。
評価部会による所見	コロナ禍においても作品の貸し借りや調査・研究において他館との協力関係を構築し、対策を講じながら展覧会の実現につなげていることは評価できる。福島県立美術館と共同で展覧会企画を実施できたことは高く評価したい。

①他機関への作品・資料の貸出し

令和2年度目標	他機関へ作品・資料を貸出す。
自己評価・課題・改善案	9件の展覧会に対して作品の貸付を行った。

②国内外の美術館や関連組織等と連携した事業展開

令和2年度目標	国内外の美術館や関連組織等と連携した事業展開を行う。展覧会を共同で企画、実施する。
自己評価・課題・改善案	福島県立美術館とともに「もうひとつの日本美術史」展を企画、実施した。

7 安全と快適性

美術館長による所見	新館の開館からほぼ 25 年が経過し、施設・設備のハード面における保守管理が、昨年度に引き続いて急務であり、昨年度末には長期休館の措置をとり、空気調和設備の工事に続いて、照明器具の LED 化を行なった。また、来館者に危険を伴う外壁工事についても着手した。そして今年度は、感染症対策という「危機管理」についても、来館者の安全に留意し、いわゆる3密を回避するに際しての対策をとり、来館者へのマスク着用や検温や、アルコール消毒などの感染対策を徹底した。
評価部会による所見	事業を引き続き重ねていくことが重要であり、継続して行くことで、コロナ禍のような不測の事態に対しても適切に対応していけるものと思われる。外壁の傷みも目立ち始めており、建物の修理については博物館とも十分に協議して実施していただきたい。

①施設・設備の維持管理

A. 施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等による安全確保

令和 2 年度目標	施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等によって安全確保を行う。新型コロナウイルス感染拡大防止に対する必要な方策を取る。
自己評価・課題・改善案	消毒剤を設置して手指消毒を実施し、モニターによる体温の計測を行う他、マスクの着用などの感染対策を職員が行うとともに来館者にも呼びかけ、感染拡大の防止に努めた。

B. 施設・設備の改修や新たな整備

令和 2 年度目標	経年劣化による各設備老朽化に対し、修繕を行う。
自己評価・課題・改善案	1 階展示室の照明配電盤及び照明機具の更新工事を行い、照明機具を LED に交換した。外壁タイルが剥落する危険があり、応急処置とネット設置により対応しているが、全面的な補修工事の必要がある。空調機器をはじめ、老朽化による不都合にはその都度対処を行っている。

C. 日常的なメンテナンス等による施設の美観の保持・衛生管理

令和 2 年度目標	日常的なメンテナンス等により施設の美観の保持・衛生管理を行う。
自己評価・課題・改善案	日常的なメンテナンスを行い、設備の保持を行った。

D. 長期修繕計画

令和 2 年度目標	長期修繕計画に基づき、計画的に修繕を行う。
自己評価・課題・改善案	令和3年度以降のエレベーター設備の更新に向け現状調査を開始。また、空気調和設備のファンコイルユニット及び冷温水ポンプの更新を計画している。

②快適性の向上

A. バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応

令和 2 年度目標	バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応を取る。
自己評価・課題・改善案	必要に応じて点字ブロック等の改修を行った。

B. 利用者に対する接遇

令和 2 年度目標	利用者に対し適切な接遇を行う。接遇の向上を図る。
自己評価・課題・改善案	職員に対し、利用者への適切な対応をするよう指導した。

C. 快適性向上のための上記以外の取り組み

令和2年度目標	施設の破損や汚れ等について、日常気づいた点を把握し、改善を図る。
自己評価・課題・改善案	施設の破損や汚れ等について、日常気づいた点を把握し、恒常的な雨漏りの修繕を行うなどの改善を図った。

③危機管理

A. 危機管理・防災体制

令和2年度目標	危機管理・防災体制について、実地訓練等を行う。同体制について日常的な取り組みを行う。
自己評価・課題・改善案	地震及び火災時の避難訓練を実施した。新型コロナウイルス感染対策のため、開館に向けてアルコール消毒液を館内に設置し、職員用マスクを常備した。

B. 個人情報の保護・データ管理

令和2年度目標	個人情報の保護・データ管理を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	講演会等の展覧会関連事業開催に伴う参加者及び学芸員育成にかかる実習生の情報管理を適切に行った。

④職員研修

A. 館内外の研修参加実績

令和2年度目標	館内外の研修に対して、職員が参加できる体制をとる。研修参加は各職員あたり2回以上の参加を目指す。
自己評価・課題・改善案	研修への参加には、できる限り対応したが、各職員2回以上は達成できなかった。

⑤情報公開・利用者のニーズなどの把握

A. 使命、目標、計画などの方針の公開

令和2年度目標	使命、目標、計画などの方針をホームページ等で公開する。
自己評価・課題・改善案	https://www.momaw.jp/outline/mission/ に公開している。

B. 実績や評価結果の公開

令和2年度目標	実績の検討や評価を行い、その結果をホームページ等で公開する。
自己評価・課題・改善案	https://www.momaw.jp/outline/assessment/ に公開している。

C. 入館者情報（年齢層・地域・情報入手手段等）の把握

令和2年度目標	入館者情報の把握を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートにより入館者情報の把握を行った。

D. 利用者の満足度・ニーズなどの把握

令和2年度目標	利用者の満足度・ニーズなどの調査を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートにより利用者の満足度・ニーズなどの調査を行った。

E. 調査結果等を反映した運営

令和2年度目標	満足度・ニーズなどの調査結果を反映した運営を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートなどにより指摘のあった故障箇所などの修繕に対応している。

8 入場者数と財源の確保

美術館長による所見	今年度は、コロナ禍という未曾有の緊急事態宣言も発出される状況にあって、他府県からの来館者の制限をはじめ、入館規制を行わざるを得ない事態となった。そのため、入場者数の目標達成、入館料収入の達成などについては残念な結果となったが、それでも「企画展3」の「開館50周年記念 コレクションの50年」展や「コレクション名品選」では、目標入館者数を上回り、今後当館の優れたコレクションをさらに発信できるよう努めたい。
評価部会による所見	展覧会や教育普及事業が充実する一方で、活動が一般に知られず、知名度も上がらない憾みがあり、メディア対策などに工夫をお願いしたい。コロナ禍により入場者数を求めること自体が不適切ともなりうる状況下であったが、折角開催している展覧会を多くの人に見てもらいたいのも確かであり、今後も感染対策を取りながら、広報に努め、入場者数の確保にもとりくんでいただきたい。

①入場者数

A. 入場者数

令和2年度目標	入場者数は46,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	37,892人であった。

②予算の確保

A. 入館料収入 達成率

令和2年度目標	当初予算11,938千円に対する達成率を100%とする。
自己評価・課題・改善案	2,794千円であり、23.4%にとどまった。

B. その他の収入確保

令和2年度目標	駐車場収入5,179千円、行政財産使用料1,625千円、その他2,307千円を目標とする。
自己評価・課題・改善案	駐車場収入2,020千円、行政財産使用料1,012千円、その他822千円であった。

C. 外部助成金等の獲得

令和2年度目標	今年度は申請しない。
自己評価・課題・改善案	コロナ対策国庫補助金440千円を獲得した。(文化芸術振興費補助金、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 各220千円)